

科目区分	専門科目・応用機能系		
授業科目名	最新の予防医学		
担当者名	責任者	野村 恭子	分担者 前田 恵理
単位数	2単位(選択)	配当年次	1年次
授業形態	Web Class	実施場所	授業計画の[実施場所]を参照
開講期間	2021年4月下旬～2021年12月31日		
開講曜日・時間	—		
授業の概要・到達目標			
<p>授業の目的:疫学の基礎的概念および疫学の臨床医学への応用について理解することを目的とする。 授業の到達目標:疫学の基礎を習得し、自らの研究や臨床に実践することを目標とする。</p>			
授業計画			
	授業の概要及び到達目標 (授 業 内 容)	担当教員名	講座名 [実施場所]
1	疫学とは	前田 恵理	衛生学・公衆衛生学 [Web Class]
2			
3	研究デザイン	前田 恵理	
4			
5	偏り・交絡・偶然性・因果関係	前田 恵理	
6			
7	スクリーニング	前田 恵理	
8			
9	保健統計	前田 恵理	
10			
11	医学論文の読み方	前田 恵理	
12			
成績評価の基準と方法			
WebClassでの講義30時間＋自学自習15時間、計45時間で1単位、評価は演習課題の提出物等の内容を考慮して行う。			
問い合わせ先(氏名、メールアドレス等)			
前田 恵理, erimaeda@med.akita-u.ac.jp			
その他特記事項			
履修に関する情報:WebClassにて講義を各自視聴する。 ※視聴推奨期間 4月下旬～12月31日 教科書・参考文献:臨床疫学 EBM実践のための必須知識 第3版 自学自習における学習内容:到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。			

科目区分	専門科目・応用機能系			
授業科目名	遺伝子診断学			
担当者名	責任者	高橋 勉	分担者	寺田幸弘, 高橋直人, 椎名和弘, 三浦昌朋, 羽瀨友則
単位数	2単位(選択)		配当年次	1年次
授業形態	講義		実施場所	授業計画の[実施場所]を参照
開講期間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します			
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します			
授業の概要・到達目標				
<p>授業の目的:病態・疾患の診断に特定の遺伝子変化を利用する遺伝子診断の原理と専門的知識, 現状について学ぶことを目的とする。</p> <p>授業の到達目標:遺伝子診断の原理と専門的知識, 現状を理解し, 遺伝子診断の将来を展望することを目標とする。</p>				
授業計画				
	授業の概要及び到達目標 (授 業 内 容)		担当教員名	講座名 〔実施場所〕
1	<p>遺伝子の数ほどもあると思われる遺伝子疾患の原因遺伝子が次々と明らかになるにつれて, その臨床への応用がなされてきている。遺伝性代謝異常症を例に, 遺伝子診断(保因者診断や家系の解析も含む)の実際, 病態解明への応用, 遺伝子診断が必然的に内包している論理的問題(出生前診断や治療法のない疾患の発症前診断など)などについて解説する。</p> <p>血液疾患, 腫瘍性疾患, 先天異常症, 遺伝性難聴など遺伝子診断の臨床における重要性は大きなものとなり, 治療方針の決定などに関わるようになっていく。出生前診断など遺伝子診断が力を発揮する場合も多く臨床上の課題となっている。</p> <p>また, 薬理遺伝学は薬剤の選択や投与量の決定など臨床医療の現場で大きな力となっている。</p> <p>遺伝子診断の基礎と応用を理解してもらうとともに, 興味のある分野では深い専門知識を得, 将来の問題解決への課題を見出せることが望まれる。</p>		高橋 勉	小児科学 〔講座医局〕
2				
3				
4				
5				
6			寺田 幸弘	産婦人科学 〔講座カンファレンスルーム〕
7				
8				
9			高橋 直人 亀岡 吉弘	血液・腎臓・膠原病 内科学 〔講座カンファレンスルーム〕
10				
11				
12			椎名 和弘	耳鼻咽喉科 〔同科カンファレンスルーム〕
13				
14			三浦 昌朋	薬剤部 〔同部セミナー室〕
15				
	羽瀨 友則 成田 伸太郎		腎泌尿器科学 〔泌尿器科 カンファレンスルーム〕	
成績評価の基準と方法				
講義室(研究室)での講義30時間+自学自習15時間, 計45時間で1単位とし, 評価は出席状況と提出したレポート等の内容を総合的に評価して行う。				
問い合わせ先(氏名, メールアドレス等)				
高橋 勉, tomy@med.akita-u.ac.jp				
その他特記事項				
<p>履修に関する情報: 社会人大学院生など, 勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。</p> <p>教科書・参考文献: 必要に応じて資料を配付する。または, 文献を指定する。</p> <p>自学自習時間における学習内容: 到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。</p>				

科目区分	専門科目・応用機能系			
授業科目名	放射線医学			
担当者名	責任者	橋本 学	分担者	高木 倫子
単位数	2単位(選択)		配当年次	1年次
授業形態	講義		実施場所	授業計画の[実施場所]を参照
開講期間	科目履修登録終了後に受講者にメールで連絡します			
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者にメールで連絡します			
授業の概要・到達目標				
<p>授業の目的:放射線診療機器について理解することを目的とする。 授業の到達目標:臨床の現場で放射線医療機器の果たす役割について説明できることを目標とする。</p> <p>授業の概要:各種疾患(腫瘍性病変・緩和治療・急性期疾患など)の診断・治療において必要不可欠な放射線診療の概要について、最新情報を交えてオムニバス形式で講義する。</p>				
授業計画				
	授業の概要及び到達目標 (授 業 内 容)		担当教員名	講座名 〔実施場所〕
1	放射線診断		橋本 学	放射線医学講座 (カンファレンスルーム)
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8	放射線治療		高木 倫子	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
成績評価の基準と方法				
講義室(研究室)での講義30時間+自学自習15時間,計45時間で1単位とし,評価は出席状況・口頭試問・提出したレポートの内容を総合的に考慮して行う。				
問い合わせ先(氏名,メールアドレス等)				
橋本 学, hashimms@med.akita-u.ac.jp				
その他特記事項				
履修に関する情報:社会人大学院生など,勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。 教科書・参考文献:標準放射線医学など 自学自習時間における学習内容:到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。				

科目区分	専門科目・応用機能系						
授業科目名	新興・再興感染症						
担当者名	責任者	植木 重治	分担者	嵯峨 知生			
単位数	2単位(選択)		配当年次	1年次			
授業形態	講義		実施場所	授業計画の[実施場所]を参照			
開講期間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します						
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します						
授業の概要・到達目標							
<p>授業の目的:新興・再興感染症の特徴と背景を教示する。 授業の到達目標:新興・再興感染症を理解し概要を説明できる, さらに現在の課題を述べるができることを目的とする。</p> <p>授業の概要:新興感染症とは、「過去20年間に於いて新たに明らかになった病原体によって引き起こされる感染症で、発生率が増加しつつあるもの、あるいは将来的にヒトの生命を脅かす可能性があるもの」と定義され、COVID-19やエボラ出血熱などがこれにあたる。一方、再興感染症は、「かつて存在した感染症で公衆衛生学上ほとんど問題にならないようになっていたが、近年再び増加してきたもの、あるいは将来的に再び問題となる可能性がある感染症」が対象とされ、耐性菌感染症や狂犬病などが挙がる。これらの特徴と背景を教示し、感染症の実態や病態を理解し、適切な診断法、治療法や対応策を考え、解決する能力を養う。</p>							
授業計画							
	授業の概要及び到達目標 (授業内容)	担当教員名	講座名 [実施場所]				
1	新興感染症について	植木 重治 嵯峨 知生	総合診療・ 検査診断学 [講座カンファレンスルーム]				
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8	再興感染症について			植木 重治 嵯峨 知生	総合診療・ 検査診断学 [講座カンファレンスルーム]		
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15	新興・再興感染症のまとめ					植木 重治 嵯峨 知生	総合診療・ 検査診断学 [講座カンファレンスルーム]
成績評価の基準と方法							
講義室での講義30時間+自学自習15時間、計45時間で1単位とし、評価は出席状況と口頭試問および筆記試験の結果、提出したレポートの内容を考慮して行う。							
問い合わせ先(氏名、メールアドレス等)							
植木 重治, shigeharu.ueki@gmail.com							
その他特記事項							
履修に関する情報:社会人大学院生など、勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。							
教科書・参考文献:必要に応じて資料を配付する。または、文献を指定する。							
自学自習時間における学習内容:到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。							

科目区分	専門科目・応用機能系			
授業科目名	腫瘍学			
担当者名	責任者	山本 雄造	分担者	南谷 佳弘, 羽瀨 友則, 飯島 克則, 柴田 浩行
単位数	2単位(選択)		配当年次	1年次
授業形態	講義, 演習		実施場所	授業計画の〔実施場所〕を参照
開講期間	2021年4月～2021年9月(日程の詳細は応相談)			
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します			
授業の概要・到達目標				
<p>授業の目的:罹患数の多い腫瘍(癌)に関する病態論並びに現行最先端の治療の概要を学び, 新規治療法開発や将来の問題解決のための研究の進め方について理解することを目的とする。</p> <p>授業の到達目標:我が国における癌疾患の実態を理解し, 最先端の治療がどのようなコンセプトの基に行われているかを説明できるようになることを目標とする。</p>				
授業の概要:『授業の概要及び到達目標(授業内容)』を参照				
授業計画				
	授業の概要及び到達目標 (授業内容)		担当教員名	講座名 〔実施場所〕
1	呼吸器外科総論		南谷 佳弘	胸部外科学 〔南臨床棟外科 カンファレンスルーム〕
2	肺がんについて知る		今井 一博	
3	呼吸器外科領域のガイドラインを紐解く		今井 一博	
4	泌尿器の4大癌(膀胱癌, 腎癌, 前立腺癌, 精巣癌)についての特徴と診療上の課題を概説		羽瀨 友則	腎泌尿器科学 〔泌尿器科 カンファレンスルーム〕
5	前立腺癌の特徴, とくにアンドロゲン依存性と非依存性, 薬剤耐性のメカニズム, 高脂肪食と進展の関連などの特性を解説		成田 伸太郎	
6	腎癌の特徴, とくに血管新生や腫瘍免疫に焦点をあて, 最新治療の現況と問題点を解説		沼倉 一幸	
7	肝癌の成因と肝癌予防を目指したウイルス肝炎治療		飯島 克則	消化器内科学・ 神経内科学 〔消化器内科, 神経 内科セミナー室〕
8	肝癌の疫学と内科的治療		飯島 克則	
9	胆道癌・膵癌の内科的治療		飯島 克則	
10	肝癌と胆道癌の実態とエビデンスに基づいた治療設計		打波 宇	消化器外科学 〔南臨床棟外科 カンファレンスルーム〕
11	膵癌の実態とエビデンスに基づいた治療指針		山本 雄造	
12	消化器癌集学的治療における外科手術の立ち位置		打波 宇	
13	発癌の分子メカニズム—発癌モデル動物を用いた解析—		柴田 浩行	臨床腫瘍学 〔基礎棟2階 第二講義室〕
14	がんゲノム診断—分子標的治療の新展開—		柴田 浩行	
15	分子標的薬の開発—トランスレーショナル研究—		柴田 浩行	
成績評価の基準と方法				
講義室(研究室)での講義30時間+自学自習15時間, 計45時間で1単位とし, 評価は出席状況と口頭試問および筆記試験の結果, 提出したレポートの内容を考慮して行う。				
問い合わせ先(氏名, メールアドレス等)				
山本 雄造, yy@med.akita-u.ac.jp				
その他特記事項				
履修に関する情報:社会人大学院生など, 勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。 教科書・参考文献:必要に応じて資料を配付する。または, 文献を指定する。 自学自習時間における学習内容:到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。				